

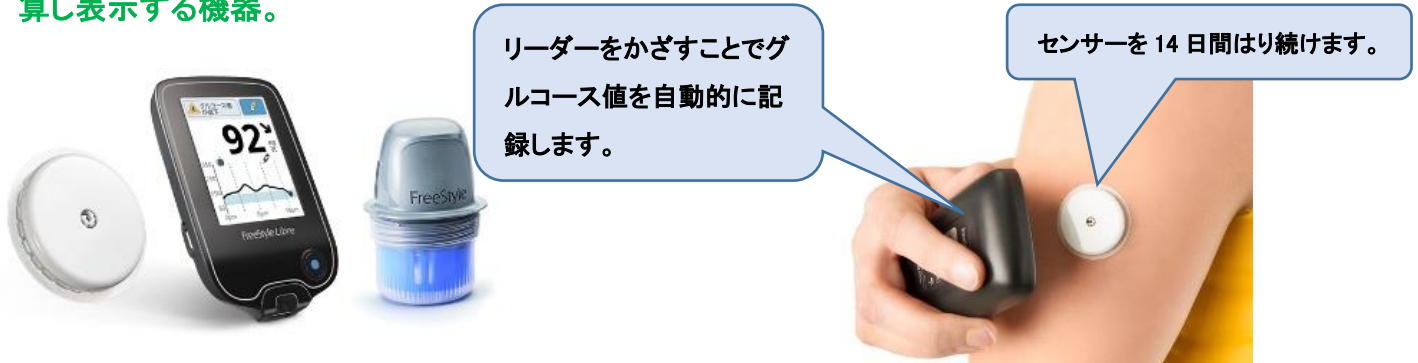


STOP 糖尿病

糖尿病ケア通信H30年度、8号

FGM(フラッシュグルコースモニタリング)について紹介します。

「FreeStyle リブレ」皮下に入れたセンサーで間質液中のグルコース濃度を連続的に測定し、血糖値に換算し表示する機器。



【どのような人に適応になるか】

現在の血糖自己測定(SMBG)と同様、**インスリン製剤**や**GLP-1 受容体作動薬の自己注射を週1回以上自己注射している患者**。GLP-1 受容体作動薬単剤や経口糖尿病薬との併用など、低血糖リスクの乏しい患者で血糖コントロールの目標を達成している患者は適応外。

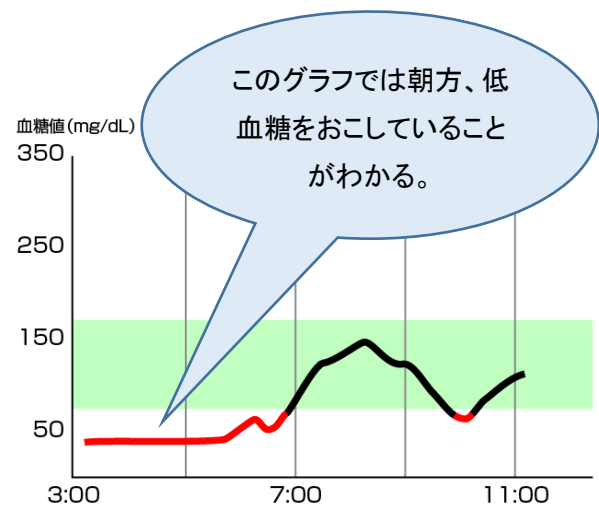
【なぜ、今 FGM が注目されているか】

最小血管障害(網膜症、神経障害、腎障害)を抑制するには、空腹時血糖時、HbA1c 値を改善することが重要。大血管症を抑制するには食後高血糖も改善する必要がある。なぜなら、食後の急激な高血糖は活性酸素の発生をうながし、血管に酸化ストレスを与え、動脈硬化を促進させるからだ。HbA1c は過去1~2か月間の平均血糖値を現す指標であり、血糖の変動幅が大きい人も小さい人も同じHbA1cとなる。つまり、**HbA1c だけを見ていると、動脈硬化を進めてしまう急激な高血糖や低血糖をみのがすことになる**。FGM を活用することで、血糖トレンド(血糖変動の傾向)を知り、高血糖の是正や無自覚性低血糖・夜間低血糖が起きているかを確認することができる。

【自己血糖測定(SMBG)とのちがいは?】

現在の血糖測定では、測定時の値しかわからなかったが、FGM は睡眠時も含め 24 時間連続でグルコース値を測定できる。**血糖の変動や推移を線で表示すること**で、血糖コントロール状況の全体像や傾向を容易に把握できるようになる。

血糖スパイクや患者が気づかない、無自覚性低血糖や夜間低血糖の実態を把握するために、有用なツールである。



FGM は 2017 年 9 月より保険適応となりました。当院糖尿病外来では、現在この機器を医師が必要と判断し、同意された患者に一次的に使用できるかを検討中です。

文責: 成田